

## わが

「進化する潟上」を目指して  
3つの力の創造

## ほどよく田舎な潟上市

平成17年3月に誕生し、本年度20年目を迎えた潟上市は、日本海

に面した砂丘群の松林や出羽丘陵の緑豊かな山並み、八郎湖に向かつて広がる田園風景に囲まれた、美しい自然に恵まれており、訪れる人々に癒やしを提供しています。

面積は、県内で最も小さい市でありながら、J Rの



広がる田園風景と美しい自然



東湖八坂神社のトウニン行事（牛乗り神事）

また、充実した子育て支援を提供すること、子育て世帯を含む若い世代が比較的多く住まう、活気がありながらもゆったりとした暮らしを

駅を六つ有するなど交通体系が非常に充実しており、暮らしやすさの中に利便性を兼ね備えた「ほどよい田舎」です。

年間を通して数々の祭りやイベントが開催され、多彩な体験を楽しめるのも大きな魅力の一つです。特に、国指定重要無形民俗文化財である『東湖八坂神社のトウニン（統人）行事』は、地域の伝統や文化を感じる貴重な機会を提供しています。

## 3つの力の創造

楽しめる魅力的な地域となっており、著しい人口減少や少子高齢化が進む秋田県において、令和6年までの5年間、転入者が転出者を上回る社会増が継続しています。

本市の将来像として、世代を超えた多くの市民が「暮らしたい」「暮らして良かった」と感じ、市への「愛着心」を抱けるような魅力あるまち、『進化する潟上』の実現を目指して、市政運営に取り組んでおります。その柱となるのが「稼げる力」「支える力」「考える力」という3つの力です。

「稼げる力」は、地域資源の活用や特産品の開発・PR強化、雇用創出などを通じて地域の活力を生み出す力であり、「支える力」は、少子高齢化や気象災害への対応、



特産品の梨（幸水）

人々のつながりを強化し市民が暮らしやすいまちを構築する力です。「考える力」は、進行する人口減少や一部過疎指定を受ける地域と著しい人口増加が内在する人口の地域偏在への対応、持続可能なまちづくりを市民と協働して推進する力としております。

これら3つの力を本市における重点施策の柱に据え、創造的なまちづくりを進めています。

## 未来を支える子育て支援

本市では、令和7年度より「子育てはなまる潟上市」をキャッチフレーズに掲げ、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに力

を入れていきます。さまざまな子育て支援のコンテンツを「子どもが欲しい」「妊娠したら」「出産したら」「子育て」など計8項目に編成することで、子育ての各ステージにおける、支援策と支援が必要な方とをつないでいきます。

本市における特徴的な支援としては、不妊治療費の全額助成（所得制限あり）や、幼児3歳～5歳の給食費完全無償化などの実現があるほか、子育て期のライフステージに合わせて支援する「かたがみ未来子育て応援金」を通じ、全ての子どもの健やかな成長を支援する取り組みを進めています。

これらの多様な子育て支援の実を一つのファクターとして、30歳代男女の社会増の割合が多いことに加え、10歳程度までの子どもの社会増が一定程度あることから「子育て世代」に選ばれる市になってきているのではないかと感じており、さらなる子育て支援の充実を図ること、よ



Z世代活躍課辞令交付式

るために始まった「潟上市大学生等応援事業」では、それまでの市特産品を贈呈品として送ることに加え、市関係イベント情報や就職活動情報の発信も併せ行っているほか、「潟上ささぐる事業」では、本市出

り魅力的な住みやすい潟上市を実現していきたいと考えています。

## 持続可能な市を目指した新たな取り組み

市の活性化を目的として、若者の市政への参画と市とのつながりの強化を図ることを目指し、実施している「Z世代活躍課」プロジェクトは、令和6年度にスタートし、現在2期目を迎え、本市在住の高校生や大学生など19人が参加しており、月1回程度のミーティングを通じて地域課題を自ら考え、活動につなげています。また、コロナ禍で帰省が困難だった本市出身の市外在住大学生などを元気づける

身の県外在住の若者に交流の場を提供し、ふるさと潟上との結びつきを深める試みを進めています。加えて、私自らがYouTube動画に出演するなど、SNSや各メディアを積極的に活用したPRや、本市にゆかりがあり、さまざまな分野で活躍されている方々に「潟上市ふるさと応援大使」を委嘱し、本市の情報を発信いただくなど、各種取り組みを複合的かつ重

## プロフィール

- ◆ 面積 97・72km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 3万1002人
- ◆ 世帯数 1万4297世帯

〔将来都市像〕世代を超えた多くの市民が「暮らしたい」「暮らして良かった」と感じ、市への「愛着心」を抱けるような魅力あるまち、〔進化する潟上〕〔まちの特徴〕県都に接した都市的な面と、日本海と八郎湖、出羽丘陵に囲まれた豊かな自然が調和したまち



潟上市長  
鈴木雄大



層的に展開することで、若い世代との結びつきの強化や関係人口・交流人口の拡大を図り、将来的な「移住」「定住」を促進し、さらなる社会増の実現を目指しています。こうした「3つの力」のうちにある一つ一つの施策や事業を確実に、そして着実に進めることで、『進化する潟上』の実現を目指して、市政運営に取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

### 官民連携のまちづくり 「選ばれるまち」の創造に向けて

館林市は、「鶴舞う形」といわれる群馬県の南東部、ちょうど鶴の頭の部分に当たり、関東地方のほぼ中央に位置しています。浅草まで約70kmと県内の市で最も東京に近く、東北自動車道や東武鉄道により約1時間でアクセスできるため、都心へ通勤する方も多くいます。また、宿泊だけではなく日帰りでも楽しめる観光地としても多くの方が訪れます。

令和元年には、市域に点在する複数の沼と館林の人々が共生しながら現在までつないできた歴史・文化、暮らしや生業を「里沼」と表現したストーリー『里沼(SATO・NUMA)ー「祈り」「実り」「守り」の沼が磨き上げた館林の沼辺文化ー』が、文化庁「日本遺産」に認定されました。そして、この認定から6年を経過した本年、文化庁による総

括評価・継続審査が行われ、「認定継続」の決定をいただきました。引き続き、館林特有の沼辺文化を日本だけではなく、世界に発信することにより、地域住民のシビックプライド醸成や地場産業の発展、着地型観光の振興を図ります。

#### 「平地型リゾート」の推進

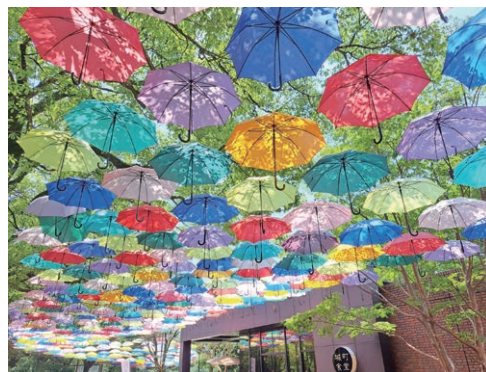
近年、仕事や生活から離れた非日常的な場所での心と身体を癒やすためにゆったり過ごす「リゾート」という新しい旅のスタイルが注目されています。

本市では、首都圏からの交通アクセスの良さに加えて「里沼」の豊かな水辺環境が整っていることから、地理



里沼リゾート Hotel KOMORINU

的特徴を生かした「平地型リゾート」を推進しています。令和6年にはサイクリングターミナルが宿泊施設「里沼リゾート Hotel KOMORINU」としてリニューアルし、城沼のほとりでレストランでの食事やサイクリング、キャンプ、バーベキューなどを楽しめる施設として大変好評をいただいています。毎年夏季には城沼の水上アクティビティとして花ハス遊覧船を運行しており、多くのお客さまに楽しんでいただいています。今後は新たにボートなども導入し、レジャーも楽しめる体験型宿泊プランを検討しています。



城町アンブレラスカイプロジェクト

建築やアートを取り入れた観光拠点の建設

さらに、茂林寺沼周辺においても、建築やアートを取り入れた新たな観光拠点の建設を予定しています。この観光拠点は、「里沼」の魅力発信機能を中心に、市民と観光客が交流できるスペースも備えた複合施設とする予定です。玄関口となる東武伊勢崎線茂林寺前駅では、既に西口ロータリーやトイレ、東西自由通路の新設に向けた整備に着手しています。駅利用者の利便性向上を図ることで、年間を通

じて全国から誘客が図れるよう官民連携で事業を推進しています。

## 夏と冬の風物詩

### 「民間主体による

### まちなかの賑わいづくり

赤や青、水色などカラフルな550本の傘が全長約60mにわたる空を彩る「城町アンブレラスカイプロジェクト」は、本市の夏の風物詩として市役所前通路を行き交う人々を楽しませています。このプロジェクトは市民有志でつくる実行委員会が令和元年から実施し、本年度で7回目の開催となりました。ライトアップにより夜間も鑑賞できるため、市内外から多くの方が訪れ、写真撮影スポットにもなっています。

また、冬には館林商工会議所青年部を中心とした実行委員会による「たてばやし光のページェント」が開催され、館林駅前東口ロータ



たてばやし光のページェント点灯式

リーから市役所へ続く通りに輝きと癒やしを与えてくれます。広場の銅像や樹木、通り沿いのベンチ

などが色とりどりの装飾できらめき、まるでアート空間のように大変身するこのイルミネーションは、20年近く開催され続けています。どちらも「観光都市館林」を広くPRするとともに、中心市街地を活性化したいという地域の方の熱い思いによって実施されているものです。

## 日本最大級の麺の祭典

本市は古くから国内有数の小麦の産地です。日清製粉の創業地として粉文化が根付いており、うどんが市民食として親しまれています。こうした食文化を広く対外的に発信し、「食のまち館林」のイメージアップを図ることを目的に、日本最大級の麺の祭典「麺-



麺-1グランプリ (今年から「麺-1祭り館林」へ改称)

1グランプリin館林」を毎年開催

しています。本年からは名称を「麺-1祭り館林」として新たに生まれ変わり、館林城ゆめひろばを会場に10月18日(土)、19日(日)の2日間にわたり盛大に開催する予定です。

## 食とアートの力

今後も、先人たちが築き上げた

## プロフィール

◆ 面積 60・97km<sup>2</sup>

◆ 人口 7万3268人

◆ 世帯数 3万5104世帯

〔将来都市像〕里沼の息づく 次世代へ安心をつなぐ 暮らしやすいまち館林

〔まちの特徴〕日本遺産「里沼」の豊かな自然に恵まれ、都心への高い交通便利性も兼ね備えた「ちようどいいまち」

〔特産品〕うどんや麦落雁<sup>らくがん</sup>などの小麦製品、酒、川魚料理、キュウリやニガ



館林市長  
多田善洋



歴史と文化を礎に、食文化とアートの力を生かしながら、今ある資源を再認識して磨き直していく「投資」をしつかりと行います。「館林に住んでよかった」「これからも住み続けたい」と思っていただけのように、そして、選ばれるまちとなるよう引き続き官民連携で職員と一緒に事業を推進してまいります。

ウリ、トマト、ナスなどの野菜、館林細〔観光〕つつじが岡公園、分福茶釜の茂林寺、向井千秋記念子ども科学館、群馬県立館林美術館、食品産業の工場見学

〔イベント〕さくらとこいのぼりの里まつり、つつじまつり、夏の城沼花ハスマつり、館林まつり、館林手筒花火大会、麺-1祭り館林、産業祭、初市(だるま市)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

歴史と未来が響きあうまち、  
伊豆の国市

静岡県伊豆の国市は、東京からおよそ100kmという距離にあり、東西を山々に囲まれ、市の中央を穏やかに狩野川が流れるなど、風光明媚で豊かな自然環境に恵まれた地域です。

また、市内には、北条早雲ゆかりの韭山城跡、品川台場の築造で知られる江川坦庵公の屋敷である江川邸、さらには世界文化遺産に登録された韭山反射炉など、各時代の足跡が色濃く残っており、歴史と文化の資源にも恵まれています。



伊豆の国市全景

20年の歩みを礎に、  
新たな未来へ

令和7年4月、本市は市制施行20周年という大きな節目を迎えました。この節目に当たり、市民が一体となって目指すべき道しるべとして、「伊豆の国市民憲章」を制定しました。この市民憲章が、市民一人一人が今後の市の在り方を考えるきっかけとなることを願っております。

一方で、本市も他の多くの地方自治体と同様、人口減少や少子高齢化といった課題に直面しています。合併当初には5万人を超えていた人口も、現在は4万6千人を下回り、地域社会の持続可能性が重要な課題となっています。こうした状況の中で、私たちは「市民が主役」のまちづくりを市政の基

本に据え、市民と行政が一体となって地域づくりに取り組む姿勢を大切にしています。

その一環として、市内各地で開催している「市長と語ろう」では、市民の皆さまと直接意見を交わす機会を継続的に設けています。地域で活動されている方々の思いや現場の課題に触れることで得られる気づきを市政に反映し、協働によるまちづくりの実現を目指しています。

歴史を身近に、  
「文化財展示施設」の整備

本市には、縄文時代から近代に至るまでの多くの歴史文化遺産が存在します。こうした貴重な地域資源を一体的に紹介し、魅力ある



文化財展示施設外観

まちの姿を広く発信するため、現在「文化財展示施設」の整備を進めています。

施設には、展示室に加えて、市民の交流スペースや地域を一望できる展望ラウンジなどを備える予定で、令和8年度の供用開始を目指しています。

農業に挑む、  
新しい担い手たち

本市では、新規就農支援や食農連携、有機農業の推進などに取り組み、県内有数の「食と農のまち」

この施設は、次世代の教育資源としての活用を想定しており、子どもたちが地域の歴史や文化に触れることで、地元への愛着や誇りを育む場となることを期待しています。



収穫されたミニトマト

また、令和6年度には「オーガニックビレッジ宣言」を行い、環境に配慮した農業への転換も進めています。実証は場の設置や学校給食への化学合成農薬や肥料を使用していない野菜の導入など、地域と連携しながら、安全・安心な食の提供体制の整備を進めています。

従来の農産物の生産力を維持しつつ、持続可能な農業の在り

を目指しています。中でもミニトマトとイチゴは、静岡県内でトップの生産量を誇る特産品となっており、市内では多くのニューファーマーたちがその生産に取り組んでいます。

ニューファーマーの中には、県外からの移住者もあり、国・県・市の支援制度を活用しながら、先輩農家の現地指導や技術共有を受けて営農に励んでいます。農業未経験者でも安定的な経営を目指す環境が整っており、就農定着率はほぼ100%です。こうした成功事例は地域に新たな価値をもたらしています。

方を地域全体で模索していくことは、地域経済の活性化にもつながるものと考えています。

## 幼児期からの英語教育で未来を拓く

本市から世界で活躍するグローバル人材を育てたい、そのためには、幼児期から英語や異文化に触れることが極めて重要であると考え、令和4年度に一部の幼稚園で試験的に英語や異文化に触れる取り組みを始めました。さらに、令和5年度からは、市内全ての幼児、小中学校を対象を広げ、5歳児の頃から、外国語指導助手（ALT）との活動を通じ、言語や文化について体験的に理解を深め、コミュニケーション能力の育成に取り組んでいます。

この取り組みは、「英語は世界共通の言語であり、グローバル化の



英語教育の現場

進展により必要とされる学びであること」、「子どもたちの可能性を広げ、広い視野を持つて物事を捉える素地を養う必要があること」、「所得の格差に関係なく、誰もが学ぶ機会を得られること」などの方針を掲げて実施しており、幼少期における体験型の言語学習は、将来にわたっての大きな財産になる

## プロフィール

- ◆ 面積 94.62km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 4万5601人
- ◆ 世帯数 2万1648世帯

〔将来都市像〕歴史が息つき、未来にわたり、誰もが幸せに暮らせるまち

〔まちの特徴〕東西を山々に囲まれ、中央には狩野川が流れるなど、風光明媚で豊かな自然環境に恵まれたまち。また、葦山反射炉をはじめとする歴史文化遺産が多数存在する、世界に誇る歴史のまち

〔市町村合併〕平成17年4月1日、伊豆長岡町、葦山町、大仁町の3町が合併



伊豆の国市長  
山下正行



〔特産品〕イチゴ、ミカン、ミニトマト、スイカ、柿、大根、アユ、お茶、温泉まんじゅう、パン祖のパンなど

〔観光〕道の駅いずのへそ、川の駅伊豆城山、伊豆パノラマパーク碧テラス、いちごプラザ、葦山反射炉、蛭ヶ島、江川邸、葦山城跡、願成就院など

〔イベント〕源氏あやめ祭、鶴ばらい祭、いちごまつり、きにゃんね大仁夏祭り、伊豆長岡温泉花火大会狩野川まつり、パン祖のパン祭、おおひと梅まつり、かわかんじょう、温泉場お散歩市など

はずです。

本年は市制20周年のほか、葦山反射炉世界遺産登録10周年、狩野川放水路60周年、そして北条政子没後800年など多くの節目でもあります。過去を顧み、将来に思いをはせ、誰もが幸せに暮らせる住みやすいまちづくりを進めていきます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

# 平和を未来へ、豊かな恵みと 笑顔が響くまち

## 戦後80年目の取り組み

本年は戦後80年の節目に当たり、国内唯一の戦跡国定公園を有する糸満市から沖縄戦の記憶と歴史を次世代に正しく伝え、戦没者への追悼の意と恒久平和を発信す



戦後80年の祈り

ることを目的に、「糸満市戦後80年平和祈念事業」を開催しました。

この事業は、6月から9月にかけて、平和の礎（いしじ）の拭き清めなどを行う「糸満市平和祈年祭」をはじめ、ひめゆり学徒隊に関する講話や市内中学生が合唱などを行う「戦後80年平和祈念イベント」のほか、奉納エイサーといった多様な取り組みをもつて展開しております。

また、地域にある戦争遺跡は、沖縄戦を語り継ぐ上で重要な役割を果たしてきた「物言わぬ戦の語り部」です。そのうちのひとつ、轟壕の360度映像記録を制作したことから、これをホームページにて公開しております。

## イマイユ市場開設

本市は、沖縄県内で唯一の「第3種漁港」である糸満漁港を擁し、県

内水産業の中心的な役割を担っています。第3種漁港は、全国的な漁業の拠点として整備されるもので、糸満漁港は県内外の漁船を受け入れ、マグロ、イカ、カジキ、シ

イラなどが主に水揚げされます。

この水産業の要となるのが、令和4年10月にオープンした「イマイユ市場（沖縄県水産公社地方卸売市場）」です。イマイユ市場は、県内初の閉鎖型水産物卸売市場として、徹底した衛生管理体制を構築している点が最大の特徴です。食中毒や異物混入を防ぐため、人や物の出入りを制限し、水産物の搬入から搬出まで一方通行で管理される



イマイユ市場



イマイユ市場（セリの様子）

など、安全・安心な水産物の供給が可能となり、消費者からの信頼獲得にもつながっています。

水揚げされた魚を鮮度と品質を保ったまま迅速に加工処理できるため、高鮮度な製品として出荷できることはもちろん、付加価値の高い加工品の開発にもつながります。このように、本市は流通拠点としての機能を強化し、沖縄の食卓へ新鮮な海の幸を安定供給するとともに、県内水産業全体の振興、さらには水産物のブランド力向上にも大きく貢献しています。

## スポーツ先進都市の創造

本市では、本年4月20日に西崎屋内運動場が供用を開始し、スポーツコンベンションの推進に大きく貢献しています。この全天候型施設は、天候に左右されずにさまざまなスポーツ活動が可能とな



屋内運動場落成記念式典



西崎球場ブルペン

り、特にプロ・アマチュア問わずスポーツキャンプ誘致の強力な武器となっています。

市は、令和3年に「糸満市スポーツキャンプ等受入協力会」を設立し、官民一体となって国内外のチームの誘致に取り組んでいます。これまでもプロ野球の千葉ロッテマリーンズの春季2次キャンプの受け入れをはじめ、本年9月にはWBSC U-18野球ワールドカップが開催されるなど、新たな屋内施設の誕生により、さらに多くのチームが糸満市を拠点とするこ

とが期待されます。

スポーツキャンプの誘致は、選手や関係者の宿泊、飲食、市内での消費など、地域経済への波及効果が大きく、観光振興にもつながります。また、市民のスポーツ参画人口の拡大や競技力向上、国際交流の促進といった地域活性化の多面的な効果も期待されており、本市はスポーツを通じて魅力あるまちづくりを進めています。

## 次世代へつなぐ活力ある 新たなまちづくり

本市では、国道沿いの沿岸部に位置する真栄里地区で約56・1haの区画整理事業を開始し、新たなまちづくりを進めています。

地区全体の開発目標は「賑わいと活力を生み、次世代へつなぐ地域振興拠点の形成」とし、地区全体で定住促進、雇用拡大と安定、産業振興など、本地区の開発によって市全体の課題解決を目指しております。

本地区においては、国道331号を境に異なる土地利用の特性を生かし、二つのエリアに分け開発コンセプトを設定しております。

国道西エリアでは、「市民と来訪者の交流拠点形成による賑わいのあるまち」をコンセプトに本市の経済の活性化、人の交流活性化による持続可能なまちづくりに寄与するため、商業機能などの利用により、地域住民や市への来訪者にとって魅力的で利便性の高い空間を創出し、地域の「顔」となる土地利用を目指します。

国道東エリアでは、「産業・経済の新拠点形成による活気あるま

ち」をコンセプトに企業立地への対応や市内産業のさらなる成長を支援します。物

流・製造業を中心とした産業機能を導入し、魅力的な就業環境を整備することで、地域の活力を生み出す新たな拠点形成を目指しております。



新たなまちづくりのイメージ図

現在は、国道西エリアから先行して開発に着手しており、同地区の商業・ターミナルゾーンで大型の商業施設を誘致するための企業公募を進めております。

本年の冬には、優先交渉権者が決定する予定であり、本市の新たなまちの姿が具体化されていくものと期待しております。

## プロフィール

- ◆ 面積 46・60km<sup>2</sup>
- ◆ 人口 6万1979人
- ◆ 世帯数 2万8859世帯

〔将来都市像〕つなぐを深めチャレンジャーのまち糸満市

〔まちの特徴〕沖縄本島最南端に位置し、漁業や農業が盛んな地域で、沖縄戦跡や旧暦文化に根差した伝統行事が数多く残る歴史と文化の息づくまち

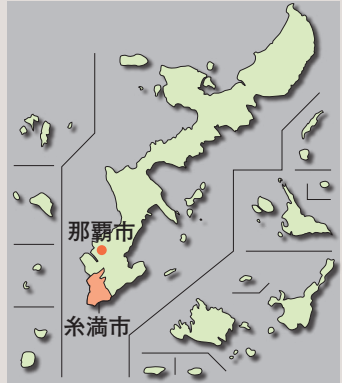
〔特産品〕美らキャロット、パッションフルーツ、マンゴー、マグロ、ソデイカ、かまぼこ、琉球ガラス、泡盛など

〔観光〕道の駅いとまん、美々ビーチ、喜屋武岬、平和の礎、ひめゆりの塔、琉球ガラス村など

〔イベント〕糸満ハレレ、糸満大綱引、糸満市産業まつり、いとまん平和マラソンなど



糸満市長  
當銘真栄



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。